

西行妖が暴走し、世界中の春度を集め出す異変世界。

ヨウムはギター型の剣【霊撃剣・楼観】を所持しており、それを使い演奏することで、スベルを発動させる。演奏中はヨウムの周囲を霊撃の力が取り巻くので、普通の攻撃は通じない状態となる。詳しくは、

(<http://www.youtube.com/watch?v=ID9iS5Rc9Dk&feature=related>)

か、第十六之巻「轟く鬼」を参照。

『第三幕妖々夢異変』

次の世界にたどりの着いたレイム達。早速光琳堂を出て、情報を集めようとするが、眼前に広がるのは雪に覆われた銀世界だった。一面の雪景色に橙は言ひで遊び出す。それを見てレイムは、「猫はこたつで丸くなるんじゃないかなかったっけ?」とサナエに聞いたりする。が、いつの間にか彼女も橙と一緒に雪合戦を始めていた。レイムはアキユウと顔を見合わせ、ため息をうつ。冬の世界かと思つて、レイムは空を見上げる。しかし、すぐ傍にそびえ立つ巨大な門と壁に阻まれた場所。その空だけは雲が晴れ、更に桜の花びらが飛んできていた。二つの季節が混じり合う世界。飛んできた花びらが手の平に落ち、それを見たレイムは「妖々夢の世界か……」と呟く。

【OPです、戦えどしめあつかひ(シム)】

原因を探ろうと、行動を開始したレイムたち三人。いつの間にか着物姿になっていたレイムは、懐に門をくぐる通行証があることに気づく。それを使い、白玉楼に潜り込んだ。

辺り一面春爛漫。「周囲の春度を集めた結果ついでにね、」と外とのギャップに戸惑いつつ、上着を脱ぎ捨てて街道を歩いていく。終わらない春に作物は絶えず成長し、誰も彼もが働く必要をなくし宴会を開いている。「ちよっといい異変にも見えませけど……」「ヒ、アキユウは呟くが、「冬の敵じやがあるからこそ、春の楽しみが増すってもんよ。年中春なんてつまらないわ」とレイムは返す。

偉い奴は高いところにいる、とどう理論の元、レイムは何段も続く石段を登るの出す。だが、そこに立ちふさがる一人の少女がいた。

「お前が世界の破壊者、レイムっすねーっ」

「ここでも破壊者扱いか……めんどくさいわね……」

「白玉楼庭師・紺白ヨウムが……あなたの行く道、世界の崩壊、

どっちも食い止めさせてもらおうよー」

そう宣言して、ヨウムは肩に担いだ【霊撃剣・楼観】を引き抜き攻撃開始。

長いリーチと素早い動きに翻弄されたレイムは、バックステップで距離を取ると、「半分成仏させてあげるわー」と【小町】のカードで変身。大鎌で武器のリーチをなくすと、更にアタックスベルで距離を操り、回避や攻撃に活用する。

ペースを掴み勝利を確信したレイムだったが、大きく後退したヨウムの行動を訝しみ、動きを止める。

ヨウムはギター型の剣を構え、「霊撃斬！ 桜花閃ター！」と言って弦をかき鳴らし始めた。突然の行動に唖然とするレイムだが、すぐに攻撃を再開。だが、演奏するレイムから漏れ出す霊撃に阻まれてしまう。そしてヨウムは演奏を終えると、瞬間、桜の霊気をまとった一閃を繰り出された。スベルの一種と気づいたレイムは緊急回避を行うと、反撃の為LAS(必殺技)のカードを取り出す。

それを発動しようとした時、ヨウムを止める声上がる。それは白玉楼の主、ユリコだった。

楼内に案内されたレイム達。ヨウムは悪魔という噂だけで襲いかかったことで、未熟者と怒られる。

その後、ユリコから世界中の春度を集めている理由が話される。それはこの近くにある枯れ桜『西行妖』を咲かせるためだと説明。そして、もう少しで実現するから待つて欲しいという要諦だった。

その間は待たせ、というアキユウとサナエの言葉に、レイムは戦わずに異変が解決するなら、と承諾。明日までに春度は返すように頼む。

一日帰ることにしたレイム達を、ヨウムは見送ることに。その道中、「何で半人前のあなたが、番人みたいな仕事をしているわけ?」と、質問する。

ヨウムの話では、少く前は彼女の師匠である紺白ヨウキがいた。だがある日、「後のことは全部ヨウムに託す」と言っ、行方不明になってしまったらしい。そしてその際「今まで自分に教わったことは、全て忘れろ」とまで言われてしまった。また半人前の自分では、師匠に何一つ及ばない。ヨウキなしでこの庭師が務まるなんて考えられない。そう思い、ヨウムは追い詰められていた。

その頃、ユリコはいくつもの春を集めても蕾しか着かない西行妖を見て、諦めて春度に戻す決意をする。

だが、そうしようとした時だ。ユッコは逆に、春度を集め力を取り戻し始めていた桜に、取り込まれてしまったのだ。

暴走を始めた西行妖は、白玉楼の春度までも奪い始める。

急に温度が下がり、周囲が冬に戻り始めたのをレイムは見たと、アキユウをサナエに任せると、ヨウムと共に再びユッコの元へ向かう。

そこには春を奪い続ける妖怪桜と、その傍に寄り添うユッコがいた。

ゆっくろとした口調で、レイムを始末するよう命じるユッコ。正気を失っていることに気づいたレイムは、「さっさと入し折っておくべきだったわね」と言ってお身。攻撃を仕掛ける。

だが、その全てをヨウムの剣にはじかれてしまった。更にヨウムは大きく振りかぶると、白玉楼門前までレイムを押し込む。ヨウムを説得しようとするレイムだが、ヨウムは師の代わりにユッコを守らなければいけない、という思いから、それを聞き入れない。

「桜の力とはいえ、あれはユッコ様の本音です。操られているとはいえ、あれはユッコ様の言葉なんですよー！」

「——ってんじゃないわよ！ このバカー！」
満開の桜をバックに次回。

『広有射怪鳥事斬』

バトルから。門にいたプリズムリバー三姉妹と、再び合流したサナエを加えて乱戦だ。

その時、紫が登場。「春だ冬だと言っている、稲穂様に叱られますわよっ」と告げて秋姉妹を呼び出す。

「姉さん、ここでもやってくるよ……神遊びを」「面白……私たちも混ぜてもらいましょうか！」と秋姉妹。三つ巴の混戦になると、ヨウムは三姉妹と協力し、大技発動。その混乱に乗じて、門を闖かしてしまふ。

それでも戦闘を止めない秋姉妹。冬空の中レイムとサナエは、目の前の姉妹を倒すことに専念しなければならなくなる。

門に額をつけながら、ヨウム「これで……いいんですよね……師匠」と漏らす。

【OP】

秋姉妹から逃れ、光琳堂に戻ったレイムたち。このままでは

全ての春が西行妖に取り込まれ、世界が永遠の冬を迎えることになる。それを防ぐには門を破り、妖怪桜の暴走を止めるしかない。

アキユウは「強力なスペルで門を破壊して、突入するしかない」と言すが、その後ヨウム・ユッコを相手にすると考えると、得策でないレイムは指摘する。

どうしたものかと思えども二人だが、何かに気づいたように、同時にある人物入視線を移す。橙と遊んでいる、サナエだ。

視点は再びヨウムへ。そもそも最初に西行妖を咲かせようと言ったのは、ヨウムの提案であった。いつも咲かない桜を見て、寂しようにするユッコの為に、春を集めたのが始まりだったのだ。

例え正しくないとしても、主の望みを叶えること。それが従者の果たすべき事だと信じて。

しかし、そこに迷いがある事にヨウムは気づいてた。自分の行いは正しいのか。答えの出ない自問を続けていた時、門前に力が集中するのを感じ取る。

「いつでもバッチ来いですよー」「そう言っサナエ」「頼むわよ」と声をかけると、レイムはJSを使用する。別の世界でも強力な威力を持つ攻撃を、サナエに使用してもう一つで門をこじ開けることにしたのだ。

サナエの砲撃で門を破ると、レイムは煙も晴れぬまま突入。門前に控えていたヨウムと再び戦闘になる。

剣を構えるヨウムに対し、レイムは身構えることなく歩み寄る。その行動にうろたえたヨウムは、一歩後退した。

「あなた、本当にこれだと思ってるの？」「そう問いかけるレイム。それに対してヨウムはうな垂れると、「じゃあ、どうしたら良いんですか？」と問い返した。

「誰も教えてくれないから！ だから、師匠ならどうするだろうって、どうする筈だっと思っただけ……それが正しいかなんて分からないですよっ」

その言葉を聞いたレイムは、ため息をつく。ヨウムの胸へらを抱んだ。

「私のはあなたの師匠を知らない。けど、これだけは言えるわ。……あなたは誰？ 紺白ヨウムでしょっ？ だったら、あなたはあんたらしくやればいいじゃない？」

ヨウキの言った「今自分で自分の教わったこと全部忘れたい」とは、そういってただ。自分を模倣するのはあなな、紺白ヨウキの代わりではなへ、紺白ヨウムとして白玉楼を、ユッコを守

って欲しかったのだ。たった一人、自分の姓を受け継いでくれた、幼い弟子」。

「自分を信じられない奴に、斬れるものなんて何もな」

そう言って手を離すレイム。よろけながら後退したヨウムは、「あんた、一体何者なんすか……？」と問いかける。それ「言

ってなかったかしら」と微笑む。

「通りすがりの解決屋……覚えときな」

そう言った。

西行楼に向かった二人は、そこで「ココ」と対峙する。「ココはもう一度ヨウムに邪魔者を排除するつもりだが、彼女はそれを拒み、剣に手をかけた。

「なぜなのヨウム。これは私の願いなのよ」

「……確かに、西行妖を蘇らせたいと思ってるのも、そうやって本当の死を望んでいるのも、きっと「ココ」様の本心です。……でも、私は嫌だから。もっと一緒に「ココ」様をいいたいから！」

「……酷いのね。私の望みを、貴女の我が儘で妨げるの」

一歩踏み出し、【霊撃剣・楼観】を構え、ヨウムは言う。

「それが私の我が儘で、だげと私が信じる私の答えだから……」

私は「ココ」様の望みを、あなたへの未練を断ち切るつもり！」

その言葉に激情した「ココ」(西行妖)は、弾幕を展開。レイムとヨウムに攻撃を開始する。

弾幕を躲しながら、「出来るの、望みや未練を斬るなんて」

とレイムは問いかける。対してヨウムは笑みを浮かべると、

「当然！ この紺白ヨウム……斬れるものは、かなりあるっすよー！」

そう言って胡蝶の弾幕を叩き斬った。

その言葉に呼応するように、レイムがカードを取り出すと、

【妖夢】のカードが解放されていた。それを見つめると、「それじゃあ、頼むわよー！」と言ってヨウムの「FS」を発動。「ちよっつとくすべったいわ」と忠告し背中を押す。

妖々夢の紋章が展開。そしてそこから、真っ白な【霊撃剣・

白楼】が現れる。

【楼観】と【白楼】の二刀流で胡蝶の弾幕を斬るヨウム。接近させる為に、レイムは自身の「AS」を発動。【八方鬼縛陣】で「ココ」の動きを封じると、ヨウムに西行妖へ向かうよう指示した。

楼が放つ弾幕を躲し流し切り裂いて、ヨウムは妖怪楼「白楼」を突き立てる。そして「断迷斬！ 迷津慈航……！」と叫ぶと、霊撃の音をかき鳴らした。

演奏が終わると同時、大量の眷属が解放され、西行妖を中心

に白玉楼をも越え、世界に春の色が取り戻された。

「おりがとうございました」

「ココ」と並んで頭を下げるヨウムに、世界の破壊者に頭を下げるな、と照れ混じりにレイム。だが、ヨウムは真面目な表情で「確かに貴女は破壊者だった。けど、それが私たちを救ってくれたんすよ」と返す。

益々照れたレイムは、適当に相づちを打つと、振り返り別れを告げる。

「いつかまた、会えるっすか」。「その間のヨウム」。「きっと、

世界が救われた後にね」

そう返事をして。

無事異変を解決したレイムたちは、光琳堂へ。そこには「ウリン」が用意してくれていた、桜餅が置かれていた。

大喜びでサナエとアキユウはテーブルにつくと、それに手を伸ばす。レイムも一つ受け取る。窓から見える春景色を見た。

「いつかここで、花見でも出来たらいいわね」

その為にも、世界の崩壊を食い止めなければいけない。目的を再確認しながら、桜餅を頬張った時、新たなスクリーンが落ちてくる。

雲上の大地と要石、そして緋色の光。

次の世界は――

「緋想天の世界か！」